

第 1 回 湖西市総合計画審議会 会議録（要旨）

開催日時	令和 7 年 1 月 30 日（木） 15：00～16：50
開催場所	湖西市役所 3 階 委員会室
委員	（出席者） 12 人 （事務局） 5 人
内 容	
1 開会	事務局 企画政策課長があいさつ、資料確認
2 委嘱状の公付	田内市長から委嘱状を各委員へ交付
3 市長あいさつ	市長：審議会委員の引き受け、本日の出席を感謝する。 総合計画とは、行政の中で最上位の計画になる。私も含めて、市の職員がここに向かって仕事をしていくという大事な計画である。 ただ、総合計画審議会とか都市計画審議会など、様々な審議会において、行政が提出したものを、そのまま受けてしまうようなこともあったかもしれない。委員の皆様には、本当に受け止め方をぜひガラッと変えていただき、あくまでも私達が案として提出させていただくものは、本当にその議論のたたき台ぐらいの受け止め方をしてもらいたい。行政の提出した案が正解ではなく、逆に市としては、「いや、それはちょっと違うでしょう」「考え方をガラッと変えた方がいいと思います」とか、出てくる提案に対して皆様のご経験と知見からご意見をいただきたい。
4 会長、副会長の選出	各委員自己紹介 菊地委員を会長に選任、彦坂委員を副会長に選任 菊地会長あいさつ 菊地会長：この度会長職という重職を仰せつかることになり大変身の引き締まる思いである。市の最上位計画である総合計画の審議会に携わらせていただくということで、これまでの経験を踏まえて、少しでもお役に立てるように努力したい。私自身は非力なので、皆様方にご協力、そして助けていただきながら、よりよい総合計画を策定していきたい。 この場に市長がいるので、一言だけ申し上げさせていただきたい。先ほど自己紹

介の中で、中村委員から総合計画はどうしても総花的なのでもっとメリハリをつけるべきだということをおっしゃられて、私も同じ問題意識をいただいている。ただ、どうしても総合計画なので総花的になるのは仕方のない部分もあるとは思う。

今回新しい市長になられたので、メリハリをつけるという意味でも、市長の思いというものをできるだけこの場で、委員の皆様に語っていただく機会というのを作っていただきたい。市長は、どういうことを目指しているのか、どういうことを考えているのか、そしてまた、委員の皆様が日頃の問題意識や考えを市長にぶつける、そういう機会を作っていただくことによって、よりメリハリの効いた総合計画になるのではないかというふうに思っている。もし可能なら、ぜひともよろしくお願いしたい。

5 諮問

諮問書を市長から会長へ提出

諮問事項

- (1) 基本構想に関すること
- (2) 基本構想に基づく基本計画の策定に関すること

市長：先ほど会長から、素晴らしい提案をいただいたので、思いを伝え、意見をいただく機会をよろしくお願いしたい。

【市長退席】

【事務局紹介】

6 会議

菊地会長：議事に沿って進めていく。はじめに事務局より説明をお願いする。

事務局：第6次湖西市総合計画第 期実践計画の策定&人口ビジョンの見直しについて（資料3）の説明

菊地会長：ただいま、事務局より説明があった。ここからは、ここからは委員の皆様に、ざくばらんにご意見ご質問等を出していただけたらと思う。

中村委員：人口が減っていくだろうという話を聞いてそれを何とかしようという目標だと、ろくな計画はできない。人口が減ってくるのは致命的で、本当に何もやらなければ多分湖西市もそうになっていくと思う。湖西市は、非常に特殊な可能性のある場所で、今から人口1万人ぐらい増やそうと思えば十分できる数少ないまちの一つ。これまで実現しなかったのかは、結局何もやらなかった、逆にむしろ人口が減る政策をや

っている。出生率を上げるのは難しいが、外から人を呼んでくることはそんな難しい話じゃない。大きく二つ理由があって、1つは、働く場所がある。湖西市は、昼間の人口は、流入の方が1万人ぐらい多い。働く場所が湖西市にあるのに、湖西市には住まずに、豊橋市・浜松市から通ってくる人がいる。その人たちに住んでもらうと人口が一番増やせる。

なぜ、住まないかという、湖西市の土地が高い。市全体の面積からすると、市街化区域が本当にわずかしかな。駅の周辺で、坪単価が30万円を超えるようなところばかり。そのような値段だと、豊橋市・浜松市へ行った方が安い。単純に市場原理で、湖西市のような田舎に高額のお金を出せない。湖西市は、市街化調整区域が面積の9割か8割以上を占めている。市街化を調整する場所として、家を建てられないようにしてきた結果、高いところの土地を買う人もいなくなっちゃった。

元々湖西市に住んでいた人が、親と同居ではなくて、近くに住みたいのに土地がない。だから豊橋市・浜松市に行ってしまう人ばかり。

市としては全く予算を使わずにできる政策があると思う。市街化調整区域の白地が莫大にある。自身が市街化調整区域に住んでいるので分かっているが、宅地化すれば、その辺の土地は坪5000円から3万円ぐらいで地主から買うことができる。その土地を造成しても、坪10万円以下で十分売れるのではないかな。そうすると、市場原理が働いて、確実に湖西市にたくさんの人が家を建てようとする。それを今まで湖西市はやったことがない。

市街化調整区域に家を建てる法律もあって、条件があれば建てられるが、そんな土地を持っている人ばかりじゃない。元々湖西市は町村が合併してできたまちなので、元々の集落エリアを開発すれば、いくらでも土地がある。

私は考え方として、今の市のコンパクトシティという方針について、そんなことを進めたら余計に誰も市街化調整区域に住まないで、このような方針は撤回して、白須賀・新所・入出・知波田などの調整区域にまとめた宅地化計画を作って、業者を募って、開発分譲してはどうか。湖西市がお金を使うのではなくて、静岡県と調整して、これからこういう政策をやりたいと打ち出して、ある程度まとめたエリアで、いっぺんに宅地化する計画をすれば、坪10万円以下で売ればすぐ売れるので、湖西市全体としては4,000戸ぐらいの住宅を建て、若い人が家を買えば子どもが2人ぐらい生まれるかもしれない。そうすると、1万6,000人が増える。少子化で減っていく分も補えて、トータルで7万人ぐらいの市にできていると思っている。

夢物語でなくて、湖西市には働く場所がある。全く開発しない状態の市街化調整区域があり、そこは地主も売るつもりもなく、諦めている場所なので、そこを安く調達して、湖西市の中で、住宅建設の業者含めて進めれば、経済効果も凄い。総合計画で農業、商業、漁業、教育、観光、福祉、医療と施策がいっぱい計画書に書いてあるが、これはこのままでもいいぐらいで、人口を増やすビジョン一番重要だと

ということなので、調整区域をいかに開発するかにはフォーカスすれば、移住のための補助金などの税金の負担をする必要はないと思います。

私は新所という超田舎に住んでいますが、私の3軒隣の家が誰も住まなくなっていて、150坪ぐらいの土地があり、そこが潰されて家が3件建った。また、別のお屋敷で300坪ぐらいある家があったが、そこを多分業者が同じような業者が更地にして、家が5件建った。町内にすごい人が増えた。建てた人になんでこんな田舎に来てくれたのと聞いたら、土地は安いし、浜名湖のほitoriなのでこんな静かで風光明媚なところはないと言う。不便でしょうと聞くと、いやいや、どうせ車があるからどこに住んでも一緒ですよと言う。もちろん空き家対策も含めて、業者と組んで市が斡旋するような形でやっていけば、新所や白須賀に人口が増えたっていい。いずれは、自動運転の時代が来る。年寄りになってもどこでも行ける。1万6,000人が増えたら学校も再開できる。それぐらいの気合を入れて、総合計画の5年間をやったらどうか。5年間ではできないけれど、実験のために例えば各地区何ヶ所かエリアで、そういう政策をやってみて、土地が本当に売れるのか家が建つのかを調べてみる。それをやるだけで、将来の可能性は非常に出てくる。そうすれば他の政策、あらゆる商業も含めて全部が良くなる。

実は30何年前の総合計画のときも、人口減少というほどの時代ではなかったが、もっと湖西市は発展しますよというのを提案したんだけど、結局は一つも取り上げてくれない、面倒くさいですから。行政がその企画をやろうとすると、相手があるわけなので。行政がやらなくても、専門の不動産業者などがうまくやれるような関係で後押しをしたら、絶対に良くなる。

菊地会長：湖西市の特性をいかした大変理路整然とした説得力のあるご意見ありがとうございます。一通り全ての委員の皆さんに意見、質問等をいただきたい。

伊藤委員：毎月広報こさいを見ていると、出生数の3倍の方が死亡されている。県内の高齢化率では、50%を超える自治体もあるなかで、湖西市は20数%ということで、良い方かなと思っている。工業もとても盛んで、前市長が言っていたように職住近接ということで、職場の近くである湖西市に住んでもらえれば、子どもの出生率が上がる。そうすると湖西市の人口も増えてくるのではないかな。

自分の家の例だが、長男が結婚して浜松市に住んでいたが、子どもには自分と同じ鷺津幼・小・中で育て欲しいと湖西市に引っ越してきた。教育の面でも、湖西市のレベルを下げないように是非環境を作っていって欲しい。

鈴木和幸委員：先ほどの中村委員の意見と同様に、未来ビジョン会議の際にも発言をさせていただいたが、やはり湖西市は市街化調整区域が多くて、土地の価格も浜松市の高塚駅の近くと同じくらいであり、そうすると、どちらが良いかとなると高塚駅の方に住まわれてしまうというところをお話しさせていただいた。また、それと合わせて湖西市内に産婦人科がないというところも問題というふうに思い、鶏が

先か卵が先かというところになってくると思うが、土地が増えて、活用が進んでそこに住めるようになったら、やはりその分人口も増えると思う。教育の場の整備も、産める場がこの近くにあるというところは、やはり必要になってくる。労働者の声としても、そのような声が上がっているので、行政要望としても検討してほしいというところは伝えている。人口が増えるような施策を打てば、整備が必要になる。

菊地会長：産婦人科の誘致は、前市長もだいぶ努力をされていたようだが、どうしても採算の関係で、難しそうであった。

彦坂昇委員：先ほどの説明の中で、前影山市長の時代に職住近接という名目でいろんな政策をやられて、その結果の数字を見ると転入者が増えてきていると。それは、一つの成果という風にもとれると思う。やはり、今までは、いろんな施策を湖西で働く人だとか、いろんな人たちにアピールするような機会がなかったのが、今回の数字の結果だと思う。いろんな手立てをすれば、若い人たちが湖西市に住もうかとか、結婚してもそのまま引き続き生活しようかというところに繋がっていくのかなというような結果の表れかと思う。ちょっと心配なのが、結婚されたときに市の方から、湖西市に住めば補助金を出しているが、多分結婚したときは賃貸で、子供が産まれて一戸建てを建てようとなったときに、この人たちが外に出ていってしまう可能性が非常に高い。やはり私も企業に勤めているときに、若い職員と話をする機会も多々あったが、湖西市に住もうと考えたときに、やはり浜松市・豊橋市の方が、生活する上で非常にいろんなものがあっていいよねっていうことを皆さん言われる。そういう環境を選ぶのは仕方ないと思う。だから、増えたといって喜ぶ反面、追跡調査をしっかりとしながら、結婚で移住してきた人たちが本当に湖西市にずっと住み続けてくれるような家を建てられるようになれば大丈夫だと思う。追跡調査をして、非常に効果があることがわかれば、継続していくとうところに繋がってくると思う。

やはり宅地が足りないとは、委員の皆さんのおっしゃる通りのことだと思う。宅地を先に作れば、住むところが生まれる。私の会社のすぐ横にあった大森の農場の跡地が、100戸ぐらいのスペースで宅地開発をして、最初の時は全然人が入らなかったが、もう6年7年ぐらいになると思うが、ほぼ埋まっている。ということは、場所があれば人が住むということに繋がっていくと考えたら、やはり人口減少を一番抑えていくには、人が住むところをまず作って、人が住めるような環境を作った上でアピールをして呼び込む。こういうことをしないと、机上のに議論にしかならず、実効性のある効果には繋がっていかないような気がする。

もう一つ、産婦人科がないことは、赤ちゃん、親の側にしたら不安。何かあったときにすぐに行けない。これは湖西市に進もうという気持ちに対して、マイナス材料として非常に大きい。今、湖西病院で助産師が交代で来てて、対応をしてくれるような制度があるけど、そうは言っても、湖西病院で赤ちゃんを産めないのも、やはり産むということの安心感までを作ってあげるっていうことを、何らか考えてい

かないと、特に0歳児から4歳児の減少を減らすという手立てにならない気がする。

彦坂美希委員：宅地について、自身は転入してきて、今は夫の実家に住まわせてもらっているが、宅地を探そうとしたときに、宅地にできる場所がない。あとは、自身にとって本当に見知らぬまちだったので、夫の実家は唯一そこで繋がりがあるところで安心して入ることできた。自身の中では、そこに入る以外の選択肢はなかったが、他と言ったときに考えてみると場所がない。

大規模造成というのは、新たに入ってくる人にとっては安心感がある。元々の地域の繋がりは、自身にとっては魅力的だったが、それがちょっと負担になるとか、地域に入りにくいなと考えられる方もいると思う。そう思うと、ポツポツではなく、大きな新興住宅地の造成というものも、呼び込みやすく、魅力を感じるのではないと思う。

自身は、小規模保育事業を実施しており、0、1、2歳が入園している。それだけでなく、をして、一次預かり事業もしている。そこでお会いするのは小規模なので限られた保護者の方だが、その中には、通常の入園を申し込んだが、入所できず、入所できない状態が続くと転出せざるを得ないという方も数組いた。すごく大きな数ではないが、タイミングの中でそういう方が複数いたということは、同じように考えられている方もるかもしれない。前影山市長が、民間保育所を設置する事業者を公募するという方針を出されたが、そういったところが改善されてくると変わってくるかもしれない。人口が転入して、子どもが産まれて、子どもが産まれた世帯が定着していくような施策を考えないといけないと感じた。

菊地会長：入所できないというのは、希望の保育園に入れないということか。

彦坂美希委員：希望の保育園があるが、入所待ちという状態の方がいる。やはり、0、1、2歳のときに、入園が叶わない。1歳までは育休があるけど、その先をどうしようと悩まれている。

片山委員：希望する場所の保育園に入れない。遠くの場所の園に入所を振られてしまう。

新居から鷺津、岡崎とか、遠くへ振られるので、移動に時間がかかり預けたい人にとって問題となっているとよく聞く。

彦坂美希委員：最近の状況と、1、2年前とでは状況がだいぶ変わってきているという肌感覚である。希望ばかり叶えるのは難しいかもしれないが、希望が叶わないと生活できないという声が出てきている。

片山委員：平等であって、平等ではない。希望するところへ行きたいけど、自営業者は時間があるだろうという昔の考え方で、入所のポイントがマイナスになる。やはり新居から鷺津に行くのと、近くの50m先に保育園があるのに、自営業者だからということで入れないと言われた人もいる。だから全然平等じゃないし、今の働き方改革の流れのなかで、サラリーマンの方々の方が時間が取れる場合もある。自営業者は、働かないといけない。農業、漁業、工業、商業も全て後継者問題というのがクロー

ズアップされ、昔からの一次産業や自営業のサービス業の人たちへの支援が手厚くはなくなってしまう。なので、なり手が無く、悪循環が発生しているのも確か。

西川委員：湖西市から出ていった子たちが帰ってこないのも課題。高校卒業から進学で行って帰ってこない。先ほど説明で、市内企業に勤めた方に対して、奨学金を企業と補助する制度の説明があったが、事務局に質問だが、今後もこれは続けていく予定なのか。

それと、教育の分野でいうと、先生方の不足がすごく問題になっている。先生になりたくて、湖西市内で育った子たちで、教育学部を出て先生になりたいっていう方々が湖西市内の学校の先生になってくれているのかを後追いして欲しい。

市内企業に就職した際の補助金の支援として、先生や幼稚園教諭として戻ってきて市内に就職してくれた方々へのバックアップも提案したい。

また、就職で戻ってきた方が、そこで家を建てて住むかという、また宅地が無い、市街化調整区域という問題が出てくる。

自身は、新居町で住んでいる場所が市街化調整区域であるため、身近な問題として感じている。自身は、実家のすぐ隣に家を建てて住んでいるが、弟たちはそこに家を建てるかという、市街化調整区域であるがために建てられない。その家に産まれた子どもでさえ、家が建てられないので、すぐ近くに自分の子どもが住めない、どこかに出て行ってしまうということがある。

市街化調整区域は、一人は建てられると聞いたことがあるが、なぜそれが一人なのか。近くに何人も子どもたちが住んでもいいのではないかと思う。その辺の調整を早めにしていただくことで、今、市内の小・中学校の配置の問題もあるので、今後、人口や、子どもの人数が少なくなっていくことで、学校運営などが難しくなっていく。教育環境の整備を含めて一緒に対応をお願いしたい。

事務局：補助金の継続についての質問について、現在やっている定住していただく方の支援策の見直しは必要と思っている。今後も引き続き、定住施策は打っていきたい。

令和2年から施策を本格的に初めて、5年が経つ。転出した理由や転入した理由などのアンケートをとっているので、エビデンスを元に、いただいた意見も参考に施策を考えていきたい。今回は、具体的なものはお示しできないが、次回の中では、アンケートから見える傾向などもお示ししたい。

片山委員：商工業など、いろいろな問題から、自身も中村委員と同じ考えをしている。個人的な提案ではあったが、湖西市に特区を作りたいというイメージで提案したことはあった。ニュータウンとして、特に湖西市に就職をしてもらって就労証明書を出してもらった人中心のまちをつくって、40歳以下ぐらいでアパートとか一戸建てを建てるようにやっていけば人口が増えるのではないかと提案したことがあった。

今若い人に話を聞くと、新居地区で実勢価格が坪当たり5万円から7万円で、建

売業者がものすごい新居地区では建てていて、実際 40 坪で 2,500 万円前後で、建てているときにもう売れていくという状況。

市にお願いしたいのは、地域地域で格差が出るのは仕方がないことだが、エリア地区の人口の増減、全体で見たら人口が減って仕方がないというのはわかるけど、なんでその地区の人口が増えているのか、良い理由が必ずあると思うので、そういうのをもう少し調査をしてほしい。

転出の問題に関しても、市の説明で先ほど転出率が多いと言っているが、学生の間は市外に出ても、住民票を変えていない。就職をするといったときに初めて転出届けをするので、そこも年齢別の転出を出してほしい。それがあると、実際の問題が出てくると思う。

アバウトに住んでももらいたいというのではなく、もう少しターゲットを絞っていかねばいけない。誰に対して住んで欲しいのか、先ほど中村委員も言われたように、湖西市は就職先があるというのであれば、一戸建てを建ててもらおうとか。

新居だと 2,500 万円前後で、なんでというぐらい本当に売れている。そういう面で価格が低ければ人口が増えていっている。逆に人口が減っている地区はどこなのか。減っている地域の問題点は何なのかというところを突き詰めていかないと駄目なのではないか。補助金をばらまいても、それだけを狙いにくる人がいるのであれば、トータル的に考えて、やはり若い人が住みやすくなるように、問題点をクリアして、教育環境も良く、住みやすいというようなビジョンでもっていかないと定住はしてくれない。

その先として、大規模開発をしても、道路が一体どうなっているのかという部分もやはり出てくる。湖西市内を走ってもらえればわかると思うが、東西に抜ける道が一体何本あるのか。南北に行くときに何本あるのか。その道路は渋滞しないか。豊橋市の二川街道を走ってきて、二川街道は直線だけど、新所原に入った途端にくねくねした道になる。道路行政も遅れているのか、総合ビジョンで考えたときに、道路も含めた都市計画で土地の活用を考えていくべき。

道路が良くなったら、湖西病院を何とかして欲しい。社会保険、国民保険で、出産に関しては、手当として何十万円というお金が一時金で入ってくる。そうすると、豊橋市・浜松市のマタニティセンターなど行ってしまう確率が高い。豊橋市のマタニティセンターはバイパスを通るとすぐだからと言う人もいれば、お腹の中に赤ちゃんがいるときから、ちょっと不安を抱えているから、やはり医療センターでという人もいる。

トータルで考えて、誰をターゲットに住んでももらいたいのかというところからやっていかないと人口増という感じではない。

良いところは、継承しいけば良いが、昔ながらの良いところに欠点があるのではないか。やはり若い人からすると、煩わしいという問題もあるだろうし、人口減と

いう問題のなかで、高齢化で回覧板に関しても、市のものに関しては回覧して良いが、その他のものについては、回覧板には回さないと言っているということは、それだけ地域で活動する人が高齢化で、人がいなくなってきたからというような感じになっていのではないか。

住みやすいというか、将来夢を見られるような湖西市のビジョンを作ってほしい、だからどうしたいんだと言ったときの答申をみんなで考えなければいけない。

松下委員：中村委員の発言に同感。自分は金融機関に勤めていて、住宅ローンの仕事をかなりやってきた。ローンをつきやすいところとなると、やはり行政がある程度流動性を認めた土地。分家だとなかなか誰もが買えない、担保価値が下がってしまうが、大規模既存集落制度で、ある程度ゆかりの人なら買えるというところ。そういうところは大規模既存集落であれば、調整区域だからといってローンをつけないということはなく、ある程度市がサポートしてくれるようなことであれば、住宅ローンはつく。働く場もあり、ある程度給料もらえるので、そういった方向性をきちんとしていけば、非常に家を買う人をサポートしやすい。湖西市の強みは、地域金融機関が非常に多いこと。信用金庫は、規模に対して、ダントツであり、超激戦区である。

住宅ローンは、昔は2割自己資金がないと買えなかったが、今は満額ローンで、諸経費まで貸す時代になっている。大規模既存集落の制度を見直すだけでも効果がある。例えば、市街化調整区域を買えないと住みやすいところに人が集まってしまうので、そこを変えてほしい。

個人的に、大学2年生の子どもが県外にいるが、2月15日に浜松市のアクトで開かれる湖西市の就職フェアに参加する。子どもが友達も誘って行くが、湖西市にはこんなに大企業があるということを知らなかった。やはり、湖西市の信用金庫の多さとプラス、地元の取引先が多いというのは強い。日本のためという観点でも、出ていってしまう人を戻すために、事前に企業情報の告知や、例えばインターンシップをやるなど、中小事業者をサポート、お金を出すだけではなくて、商工会もやっているかもしれないが、湖西市として取りまとめてあげるなど、やれる範囲ではどんどん支援していく必要がある。湖西市はそういう魅力のあるまち。

宇田委員：自分は、白須賀に住んでいる。先ほどから宅地化施策の話が出てきているが、白須賀は、町も家もあるが、結構空き家が目立ってきていて、学校も今中学校が統合するかしらないかという話で、一クラス15人の学級もあるし、宿場町だが、だんだん廃れてきているというのが、住んでいる人たちにも目に見えてわかってきている。

白須賀は近くにスズキがあり、バッテリーパークができて、バッテリーロードもできて、バイパスもあり、場所としては、すごく良いところ。だけど、宅地がないというのが本当に住んでいる人たちは、一番の問題だと思っている。確かに青地に宅地ができないのは、仕方がないが、たくさんある空き家をどうにかしないといけないということと、交通の便が良いという地域性を踏まえて、もう少し土地開発など

に目を向けてもらえると良いと思っている。そうすれば小中学校の統合問題も解決に繋がるのかな。

住民からすると少し行政から忘れられているのではないかみたいな声もあったりするので、せっかく大きな企業できて、これからバッテリーパークもどんどん人が増えていくだろうし、今はそれをチャンスだと思って、将来の投資など、企業の取り組みを見て、宅地について考えていかないといけないと思う。

菊地会長：今いろんな話題が出ましたけれども、継続でもいいですし、ご専門の観点からでも結構です。ご発言をお願いします。

小林委員：外国人の支援をしている。湖西市の人口の増減でいうと、外国人がやはり増えている。湖西市は、外国人にとっては企業がいっぱいあって働きやすいからやってくる。20年ぐらい前に来た人たちが家庭を持って、子どもを産んで、その子どもたちが大きくなっている。そういう中で、やはり家を持ちたいということで、もう実際に家を買っている人もいれば、これから買いたいという人たちもいるが、やはり高いとなかなか買えない。それと、技能実習生以外は大体車を持っているので、多少遠くでも、例えば入出とか知波田の方でも買いたいのところがあれば買うという状況。今、入出の方で何件か外国人の方が家を持っているが、そういう中で、これからも外国人が増えていくと思うので、外国人にとっても住みやすい湖西市であって欲しいので、家を建てやすいようなところが増えると良い。

もう一点、外国人だけではないが、今、子どもが小さいお母さん方は、大体働いている共働きだと思う。そうした場合に、これは企業の問題になるかもしれないが、働きやすい会社があって、子育てもしやすいというところがきちんと見えてくると、子どもをもう1人産もうかなとか思うかもしれない。企業にも、そういう子育てしやすいという環境整備を考えていただけたらいいんじゃないかなあと思う。

鈴木典之委員：私も事務局の資料を事前に見たりして、いろいろ議論はしていたが、資料の13ページをみていくと、やはり令和4年目以降出生数がどんどん減っていくのに加えて、その一方で、死亡する方がどんどん増えているということなので、事務局の方では、できれば2040年には5万人に達成したいというのが、ひょっとしたらもっと下がっていく可能性もこのままではあるのかなと。実際のところ、2025年の人口が、緑やオレンジ色のグラフだと5万7,341人となっているが、既に昨年12月末時点でも5万2,000人台なので、でこの調子でいくとそもそも発射台のところの数字はもっと下がっていく可能性があるのではないかな。

その中でも、事務局の作った5万人が、非常に守りの姿勢の感じかな、と皆さんのお話を聞いて思った。どうやったら人口減を緩和していくかという視点ですが、今委員の皆さんの意見を聞いてみると、やはり人口をどうやって積極的に増やしていくか、そこは非常に強く感じたところ。

事務局の方は、基本的には合計特殊出生率が今1.25ぐらいのところを、最終的に

1.8 まで持っていくということで、出生率をとにかく上げていこうとなっているが、委員の皆さんの話を聞いていくと、それも当然必要なところではあるが、やはりいかに社会増、転入をしてもらうかという、その環境作りが非常に大事になってくるのだろうなと思った。

子育て世代をいかに増やしていくかという視点、これは、非常に自分は大事だと思っている。委員の皆さんの意見もその通りだなと思って聞いている。ただ、一方で高齢化率というのは、どんどん増えていくという統計上のなっているもので、そういう意味で高齢者に対する暮らしといった観点や、あとは外国人の方も増えていく可能性もある。昔を見ていくと、2024 年が外国人 4,226 人に対して、2008 年は 4,600 人ということで、非常に増減が結構ある。2008 年が過去最高で、4,656 人いたが、その後 2015 年に 1,535 人まで下がっている。コロナでさらに人口減が起こったが、それからまた最近の景気回復の中で 4,200 人となっている。令和 6 年については、若干減少傾向であるというのが、統計上出ているので、外国人が本当に増えていくかどうかは、少し分からないかなと感じている。

あと、白須賀の話もあり、エリア別の増減についての話もあったが、トータルで人口をどれだけ確保するかという視点もあると思うが、やはりエリアごとでかなり人口増減のところが出るなと感じている。例えば、私も少し調べたところ、市全体である 5 年間を見たら、人口は大体 5%減だったが、北部のあるエリアでみると、倍の 10%ぐらいが減っているということもある。エリアによって、おそらくかなり人口増減がこれからあるのではないかという意味で、できればエリアごとの人口増減を出していただきたい。

プラス、世帯数の動向も大事と思っている。人口はどんどん減っているが、世帯数はどんどん増えているというので、それは単身世帯が増えているということになるし、これから高齢化が進むということで、多分お年寄りの方の単身世帯というのは増えていくだろうと考えられる。トータルの人数を見るのも大事だが、世帯数も加味していく必要はあると思う。それによって、これから増えるだろうと言われている、例えば、孤独死と言われてるところの対応等、高齢者の方々へのケアといった観点では、人口の動態をよく見ていく必要があると感じている。

菊地会長：どうもありがとうございました。委員の皆様方から一通りご検討いただいた。

皆様方のご意見を伺っていると、深い総括意識と、市を心配する愛着というのを非常に強く感じさせていただいた。せっかく貴重な、重要な意見がこれだけ出されたので、事務局は、次回以降、この一つ一つの意見に丁寧に取り扱っていただいて、決して無視することがないように検討をよろしくお願いしたい。

それでは、この議題につきましては以上とさせていただきます。(2) その他、第 6 次湖西市総合計画第 1 期 KPI の延長について事務局からご説明お願いいたします。

事務局：第6次湖西市総合計画第1期KPIの延長について（資料4）の説明

菊地会長：どうもありがとうございました。第6期湖西市総合計画の第1期KPIの延長についてということで、目標値について延長設定するというご説明だったかと思う。
これについて何か意見、質問等はあるか。

（意見なし）

菊地会長：それでは、議題はこれで全て終了となるが、これまでの議論を踏まえてでも、その他でも追加で意見や質問はあるか。

（意見なし）

7 その他

事務局から事務連絡

第2回審議会の開催日について

令和7年3月19日 15:30～

会場 湖西市役所 3階 委員会 室

8 閉 会